

## 秀賞

### 「壁」

福島県いわき市立藤間中学校

2年 箱崎 彩花

今年、空手を始めて9年目の夏を迎えた。私が幼稚園の年長組の夏、2歳上の兄と一緒に始めた空手。礼儀作法、道着の着方、そして形や組手の基本、試合のルールや進め方、すべてが初めてのことばかりであった。一つ、一つ、兄と一緒に学び、はじめは兄の背中を見ながら必死についていった。空手には、たくさんの形があり、新しい形に挑戦するたび、兄が先に形を覚え、私に教えてくれていた。空手の稽古、家での練習、大会への移動、試合……すべて兄と一緒に歩んできた。

兄は今年の春、高校生になり空手を引退して、新たなスポーツにチャレンジしている。元々兄も私も中学3年生まで空手を引退しようと考えていた。そのように思ってはいても、まだ現実味はなかったが、兄が実際に引退したこと、急に実感がわいてきた。私の空手の生活から兄がいなくなり、新たなスポーツにチャレンジしている兄を見ると、これから私は一人で空手と向き合わねばならないことを実感し、また、正直少し不安を感じていた。兄と一緒に歩んだ8年、そして一人で歩む9年目。今年からは、私の「チャレンジ」の年が始まるのだ。

一人で歩み始めた今年の空手の大会、無事に全国大会出場を決めることができた。しかし、私は最近、試合前の緊張や不安からの体調不良が大きな壁となっている。兄や、今まで仲良く一緒に空手をやってきた仲間がどんどん引退していく、私が一番年上になったという環境も影響しているのかもしれない。小さい頃とは違い、「試合に勝たなければいけない」というプレッシャーを感じるようになってきた頃から、気持ちが悪くなったり、手足の汗がひどかったり、最終調整の練習中うまく体が動かなかつたりと、体調不良と闘うことになってしまった。そんな時はただ自分と向き合い、自分に「いくしかない」と言い聞かせて試合に臨むしか方法はなかった。

「自分で乗り越えるしかない」と周りから何度も言われ、頭ではわかってはいても、どう乗り越えるのか、何をしたらいいのか、全くわからなかった。

今年の夏の全国大会でも、やはり始まる前は体調があまり良くなく、また同じかと一瞬不安に思った。しかし、今回は少しだけ違った。いつもなら「だめだ」とプレッシャーに押しつぶされそうになってしまっていたが、「よし、いくぞ」という前向きな気持ちで試合に臨むことができたのだ。なぜだかは自分に

もわからない。しかし、壁がほんの少しだけ、くだけたような気がした。その壁を乗り越えるのか、壁を壊すのか、壁が自然消滅するのか、今の私にはまだわからない。しかし、この壁がなくなった時、私はさらにレベルアップできているのではないかと思う。これも私にとっては「チャレンジ」の一つなのかもしれない。

大きな壁に立ち向かい、今よりもっと強くなるためには、自分の弱い部分に目を向けて、しっかりと受け止めていかなくてはいけないと思った。嫌なことは忘れない、思うようにいかなかつた試合を思い出して話をしたくない、と思っていたが、過去の自分と向き合わなければいけないのではないかと思うようになった。冷静に考えてみると、「勝ちたい」という気持ちと、「勝たなくてはいけない」というプレッシャーは、似ているようで大きな違いがあるのかもしれないと気づいた。小さい頃のように何も考えずに、ただ「勝ちたい」気持ちで一つ一つの試合に向き合えたらいいなと心の底から思った。

私も兄と同じように、中学3年生で空手を引退すると思う。あと残り約1年程度、そう思うととても短い期間だ。また、来年は空手を始めてから10年目という節目を迎える。10年続けてきたことが、私の中で生きている。人前でも大きな声が出せるようになった、緊張の中でも冷静に形がうてるようになった、目標に向かって努力することの大切さを知った、どんなコンディションでもやらなければいけない時は最後までやりきることができるようになった。最後まであきらめないことの大切さを知った。自分の中でたくさんのが生きている。

空手を引退する時、私の「チャレンジ」の結果はどうなっているだろう。あと残り1年、とにかく最後まで全力でやり抜きたい、しっかりと空手と向き合い自分の力を信じて歩んでいきたい、そう感じた。そして、最後の試合はどんな結果でも笑顔で「楽しかった」「私は頑張った」と終われるようになら。そうなるための、ここから約1年のチャレンジ。私は絶対に諦めない、諦めたくない。

この「チャレンジ」の先にはきっと今よりも強い自分が待っているから。